

# IT人材育成で地域活性化

## NIKKEI ワーケーション プロジェクト

### ワーケーション会議 in 北見 厳寒の地の挑戦 オホーツクバレーの実現に向けて



ご挨拶

経済産業省北海道経済産業局長  
人口減少や少子高齢化が進む北海道にあって北見市とは、関係人口の創出・拡大といったテーマで覚書を締結し、セミナーの開催や全国への情報発信、企業相

池山 成俊氏



写真左から田澤氏、榎井氏、平田氏、西野氏

●パネリスト  
北見工業大学 工学部 情報通信系 教授  
アイエンター システム開発本部  
ロジカル代表取締役  
●コーディネーター  
ワイズスタッフ 代表取締役、  
テレワークマネジメント 代表取締役

榎井 文人氏  
平田 洸介氏  
西野 寛明氏  
田澤 由利氏

榎井 私の研究テーマは、大量のデータを集めてデジタル化して解析、付加価値をつけて現場にフィードバックしたり知識を発見したりすること。

パネルディスカッション

榎井 カーリング場に測定機器を埋設、集中的に分析することで競技にも生かす、アスリートの活躍を支援する技術の実現にも尽力、地域への貢献を目指す。

平田 北見でカーリングに出会い、日本代表選手として、金メダル獲得を目指している。市役所の業務効率化、自治体業務のDX化、さらには北見工大のカーリング支援施設の分析システムを手がける。デュアルキャリアを継続できる人はごくわずか。サケモデルとしてUターンできたことが、仕事と競技生活の両立に役立っている。

西野 東京で就職したもののなじみず、勤務先の勤めもあってUターンした。北見は大自然の中にあり、冬の流水から夏のキャンプ、名物の焼肉や回転寿司も堪能できる。やりがいを持って自由に、自然に暮らせるサードプレイスを求めている人は多いのではないかと。田澤 政府のデジタル田園都市国家構想は、学

冒頭メッセージ

## 地域の稼ぐ力向上を

「オホーツクバレー」は、働き方変革とICT(情報通信技術)の発展により、オホーツク地域ならではのIT都市を目指すもの。首都圏IT企業に就職した北見工大OBがスタートアップ人材としてUターンする「サケモデル」を推進、中心市街地のコワーキングスペースに、首都圏のIT企業を誘致。IT人材の育成と集積で、地域の稼ぐ力の向上を目指す。



北見市長  
辻 直孝氏

## 地域に貢献する人材を

北見工大は「自然と調和するテクノロジー」の発展を目指して「スローガン」に、地域社会に貢献する取り組みを推進する。環境エネルギー、冬季スポーツ、地域の1次産業支援、地域防災をテーマにした4つのセンターを持ち、小樽商科大学、帯広畜産大学との統合を機に、北海道全域での産業支援、新産業の創出、雇用の創出などで貢献できる人材を育成する。



北見工業大学長  
鈴木 聡一郎氏

## デジタル田園都市を実現

ぶ場所や働く場所が都市に集まり、効率よく交ざり、そこにデジタルが加わることで地域が進化するというもの。施設をつくるのが目的になりがちだが、地域の人材を育てたり、地域の課題を解決しようと人材がつかないというところから、新しい働き方が生まれる。

田澤 単にデジタル化するのではなく、それを使う人材、工夫できる人材を育てる教育機関があつて初めてデジタル田園都市国家が成り立つ。

榎井 田園都市に立地する大学としてできることは研究と教育。地域密着の研究をして、それをフィードバックする。地域で育て、地域のために貢献できる技術や知識を持った人材を育成することが非常に重要だ。

東京電力ホールディングスビジネスソリューションカンパニーソリューション推進室副室長  
東京電力では、法人向けの郊外型テレワークオフィス「Solotime」を提供している。我々も実際にワーケーションを体験する中で、その課題を明らかにしてきた。一つは働くス

プレゼンテーション

佐藤 和之氏

佐藤 和之氏

## 地元とともに施設整備

ペース。ワーケーション先でも都心と同じような設備が非常に重要だ。2つ目は子供の教育。子供を預かってもらえるかが、大きなカギになる。さらに、リピーターという意味では、地域とのふれあいも重要だ。我々のようなオフィス事業者が地元企業、地元自治体と組んで一緒に、シェアオフィス、コワーキングスペースをしっかりと整備している。

キーノート・スピーチ

神山まるごと高専設立準備財団代表理事  
認定NPO法人グリーンバレー理事

大南 信也氏

神山町では過去約60年間で人口が4分の1まで激減、創造的過疎をテーマに地域づくりに取り組み。若者に魅力ある仕事や居場所を重視、仕事を

らうようにした。現在は15社がサテライトオフィス置き、そこに移住者が生まれ、若者に魅力ある仕事も誕生した。中心商店街に新たな人の流れが生まれ、小さな経済が循環、まちの景色も変わった。

好きな場所のままでは何も変化しない。行動を起こし「素敵な場所」に変えていってほしい。

「好き」を「素敵」に



神山まるごと高専設立準備財団代表理事  
認定NPO法人グリーンバレー理事

神山町では過去約60年間で人口が4分の1まで激減、創造的過疎をテーマに地域づくりに取り組み。若者に魅力ある仕事や居場所を重視、仕事を



# 働き方 場所 選ぶ時代に

## ワーケーション会議 in 沖縄

## ビジネスの感性を高める沖縄ウェルネス&ワーケーション・テック

### トークセッション1



写真左から改野氏、石川氏、枝川氏、山口氏

- パネリスト  
公益財団法人 Well being for Planet Earth  
独立研究者/著作家/パブリックスピーカー  
早稲田大学 理工学術院 教授
- モデレーター  
日経CNBCキャスター

- 石川 善樹氏  
山口 周氏  
枝川 義邦氏  
改野 由佳氏

改野 ワーケーションの本質は、自分の働き方を自分で決めること。自分で決める時代。まず、フレックスタイムなどで時間を自分で決めたい。という実感は、とても幸福を感じながら話進めたい。

山口 ワーケーションの本質は、自分の働き方を自分で決めること。自分で決める時代。まず、フレックスタイムなどで時間を自分で決めたい。という実感は、とても幸福を感じながら話進めたい。

石川 可処分所得の増加が期待できない今の日本では、可処分時間、可処分空間をいかに増やすかは重要だ。

枝川 沖縄でワーケーションをしてみたい、脳波を計測、その効果を検証した。朝は定時に起床し、通勤代わりの散歩の後、アクティビティを挟みながら、都市部と同じ業務をこなしてもらった。その結果、ネガティブな変化をした被験者はゼロだった。

## 興味広がり、仕事も集中

ワーケーションにも共通するが、ワーク度と興味度が大きく高まった。睡眠については、時間が短くなったものの、その質が高まった。仕事への集中度も高まっている。アクティビティはデトックス(解毒)効果と、アイデアを生み出すための効果がある。

結果として、沖縄に行くワーク度と興味も広がる一方で、仕事は集中できる。ワーケーションでは蓄積されがちな疲労も、睡眠をしっかりとすることで解消できる。つまり都会の仕事を持ち込んでもちろんだら、その上で、楽しみながら回復が期待できるという話だ。

石川 ワーケーションも、放っておくとワークばかりしてしまう。ワーケーションが色濃く沖縄からワークとワーケーションのバランスがとれる。

山口 葉山で暮らすようになって、仕事のやり方が変わった。働き方改革がなかなか進まないのは、仕事を終えて家に帰っても、やりたい魅力的なことがないから。それがあれば、仕事を早く終えて帰ろうというインセンティブになるはず。

枝川 課題もある。通信などインフラの整備やオフィス家具などについての注文もあった。

石川 いつもと同じことをするのは、人とかい合っことも大切。現地の人と交流が重要になってくる。

山口 その場所に最も向いている仕事は何かを考えないといけない。

石川 どこで働いてもいい時代。1年の中でこの月は沖縄、あるいは別の月は葉山というふうにポートフォリオを組むこともなるだろう。沖縄に限らず、ぜひいろいろな場所を、ワーケーションを試してみたい。

コロナ禍でリモートワークが普及、遠隔地でワーケーションを楽しむつつ働くワーケーションが広がり始めている。2月22日に北海道北見市、続いて3月11日は沖縄県を舞台に、それぞれNKKK(ワーケーション)会議を開催した。IT(情報技術)の活用による地域の活性化や新たな人材育成、科学的データに裏付けられたウェルネス、今後の可能性などについて幅広く議論した。両会議とも新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からWEBを通じたオンラインで行われた。



沖縄県知事 玉城 デニー氏

冒頭メッセージ  
昨今の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大は、経済活動や社会活動に大きな制約をもたらした。ウィズコロナ時代の新たな生活様式に対応する中で、人々の意識や旅行に対するニーズも変化しており、国内外の観光のあり方も変わってきている。

その一例として、従来のワーケーションとは異なる、旅行先でテレワークを活用して、仕事をしながら滞在するワーケーションが注目されている。最近では、ワーケーションを導入する企業や実践する個人の方も多

## 新たな魅力の発見

く見られ、そのニーズは高まっていると感じている。沖縄県は、地域ごとの豊かな自然や独特の文化など、数多くの魅力的な観光資源があり、これまでも多くの方に訪問いただいている。しかし、今後の観光においては、時代の変化を踏まえ、人々のニーズに合った新たな旅のスタイルを提案していく必要があると考えている。

本日のシンポジウムの内容が沖縄の新たな魅力を発見していただきたきっかけになることを祈念する。

移動が人間にとってどういう意味を持つのか、動物の中でこれほど世界中に広がっているのは人間だけだ。移動は人間の本来の性質である。

法政大学の永山晋准教授の研究によれば、移動する人はそうでない人よりもウェルビーイングやパフォーマンスが高くなる。転動や多様な場所での交流経験を持つ人は、インベーターと呼ばれるタイプの人が集まり交流し、様々な成果を生み出してきた。異能の

日本でも、なぜ文化や技術が普及し続けたのか。その背景には移動が関係している。無理矢理移動させることで、多様な交流が生まれ、そこからイノベーションや文化、経済が花開いた。

東京は山手線を境に、内側がパブリックエリア、外側が郊外のプライベートエリアになっている。その境界にある、下北沢や六本木といったまちには面白い人が集まり交流し、様々な成果を生み出してきた。異能の



公益財団法人 Well being for Planet Earth 石川 善樹氏

## 移動が異能を生む

存在、もしくは新しい現象は、いつも2つの文化圏に挟まれた境界から生まれているのだ。

脳の機能に注目すると、脳は活性化している部分がつながって、様々な役割を果たす。そのネットワークには、直感、大局観、論理の3タイプがある。一般の人にはせいぜい1つか2つで思考するが、インベーターな人はすべてを使って思考する。特に大局観のモードを働かせ、一人でアイデアを練っては議論して精査するを繰り返すことで、直感と論理を行ったり来たりさせる。

移動は、仕事のみならず、人生がウェルビーイングになる確率を高くする。

### キーノート・スピーチ

### トークセッション2

## 移動で創造性高める

関口 今回は、昨年11月に沖縄で開催されたリゾテックで行われたアイデアソンでの受賞者に集まってもらい、ワーケーションに関する課題などを話し合っていた。

兼村 ワーケーション促進による地域課題解決を切り口に、企業を受け入れたい。それには、ハコに加え、実証実験とCSV(共通価値の創造)ビジネスの環境整備が必要だ。地域の課題を可視化し、データベース化することが必要。我々は、ワーケーションをワーク+ローションと位置づける。

川村 ローションの知識がないと、ワーケーション先は選べない。我々のアイデアは、簡単な情報を入力するとおすすめのワーケーションプランをつくってくれるシステムだ。ワーケーション中にも実際の行動ログを入力することで、改善や追加プランが提案される。

事後の成果入力で、プランの提案精度も高まる。

宇野 実際に沖縄でワーケーションをしてみたい、おはあど働くといいコンセプトを考え出した。異文化を持つ第三者が加わることで絆が深まる。同時に、帯同する家族も地元の方々とふれあい体験ができる。

なかの 移動でアイデアが生まれやすいことから、沖縄で移動を続けた。そんな中、カヌーや陶芸体験などが盛んになっていく。浮かんできたアイデアをその場で録音できるサービスを開いた。アイデアをメモで残せるだけでなく、場所も記録することで、アイデアが生まれやすい場所を可視化できる。

関口 東京・沖縄間の通信回線には政府の支援があり、沖縄には東京周辺と同じ感覚でデータセンターが置ける。地政学的にも東アジアの国々との中間にある。地震も少ないなど、IT企業には魅力的な場所だ。

兼村 沖縄には「万国津梁(ばんこくしんりょう)」という言葉があり、様々な考え、人種を受け入れる。

宇野 極端ではない「ちよんごい」異世界感もある。

関口 コロナ禍を機に、東京一極集中に対する反省が生まれ、それがワーケーションを突き動かす要因になっている。

川村 この2年半で、会社に行かなくても仕事できることがわかった。

宇野 働き方、働く場所を考えることは、何のために自分が働くのかを考えることにつながる。

関口 課題はあるか。

宇野 様々な場所でも働くことで、創造性が高まる。生産性が上がるという雰囲気づくりが必要だ。

川村 成果の効果測定が必要。最初の1歩を踏み出しやすくする行政のサポートも必要だ。

なかの 場所の制約がなくなりつつある。次は時間だ。いい時間に波に乗りたい、夕日を眺めたい。それは9時5時の働き方では無理。

兼村 ハード面だけでなく、人材などソフト面も厚くする必要がある。

川村 沖縄は日没後は真暗で、東京よりオンとオフが明確。仕事の効率も良くなる。

宇野 どれだけ堂々と楽しみながら働くか、働くことを楽しめるかを堂々と表現してほしい。

兼村 「いつも通り」は創造性を生まない。「創造性は移動の距離に比例する」言葉通りだ。

なかの アイデアは組みあわせ。その数が多いほどアイデアが出る。組み合わせがたくさんある場所に出かけるべきだ。



写真左から関口氏、川村氏、宇野氏、なかの氏、兼村氏

- パネリスト  
GA technologies 執行役員 CCO  
ライオン 研究開発本部 戦略統括部 イノベーションラボ所長 point O 取締役  
neurowear プランナー  
一般財団法人 沖縄 ITイノベーション戦略センター セクションマネージャー
- モデレーター  
MM総研 代表取締役所長

- 川村 佳央氏  
宇野 大介氏  
なかの かな氏  
兼村 光氏  
関口 和一氏

## 広告